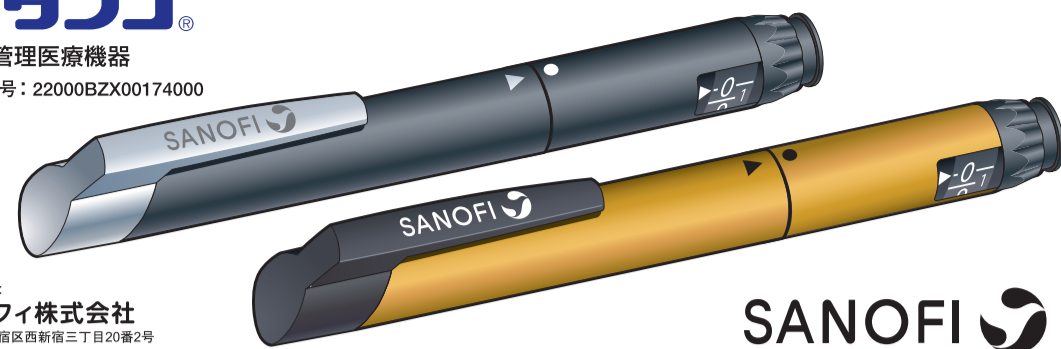


取扱説明書

インスリンペン型注入器



高度管理医療機器
承認番号：22000BZX00174000



製造販売：サノフィ株式会社
東京都新宿区長町三丁目20番2号
D0280915-MOS

イタンゴ®は、サノフィ株式会社のインスリンカートリッジ専用のインスリンペン型注入器です。イタンゴ®は、ブラックとマットゴールドの2色あります。どちらの色のイタンゴ®も操作方法は同じです。

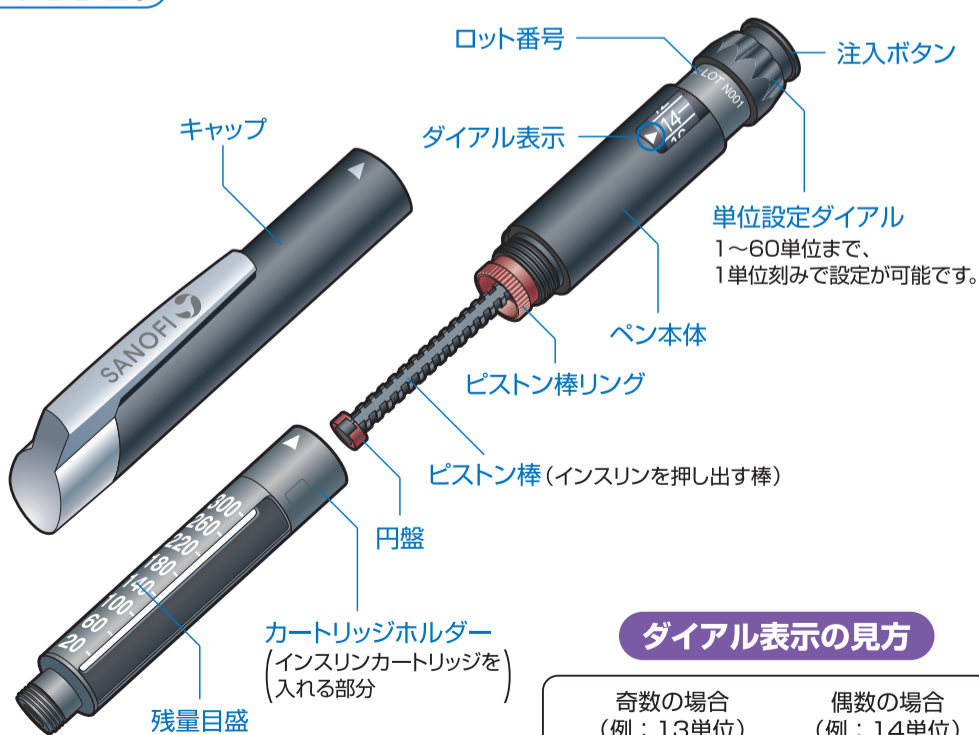
【ご注意】

- イタンゴ®を他の人と共有しないでください。
- 破損したイタンゴ®は使用しないでください。
- イタンゴ®を分解・改造しないでください。また、工具などを用いて修理を試みしないでください。
- 当社のインスリンカートリッジの注射以外の目的で使用しないでください。

ご使用にあたって

- 本品をご使用になる前に、本書および使用する製剤に添付の注意書を必ずお読みになり、その指示に従ってください。指示に正しく従わなかった場合、正しいインスリン量が注射されず、血糖コントロールが乱れるおそれがあります。
- インスリンの注射にあたっては、必ず主治医の指示に従ってください。また、インスリンの種類、単位などの変更は、主治医の指示で行ってください。
- 本品専用のインスリンカートリッジを使用してください。
- 使い捨て注射針は、JIS T 3226-2に準拠したA型専用注射針をご使用ください。
- カートリッジホルダーの残量目盛は、およその残量を確認するために使用し、注射する単位をはかる目的で使用しないでください。
- 円盤のついていないイタンゴ®は使用しないでください。円盤は少しグラグラしていますが、故障ではありません。
- イタンゴ®はインスリンカートリッジを取りつけていない状態で単位設定ダイヤルを回した時にピストン棒が動くことがあります。故障ではありません。
- イタンゴ®は注射針を取りつけずに単位設定ダイヤルを回したり、注入ボタンを押し込んだりしないでください。故障の原因となります。
- イタンゴ®を目の不自由な方がご使用になる場合は、操作法の訓練を受けた方の手助けを受けてください。
- イタンゴ®は注意深く取り扱い、ペン本体を置く場合にはできるだけ平らな場所に置き、落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- イタンゴ®の汚れは、よく水を絞ったやわらかい布でふきとってください。アルコールや有機溶媒、中性洗剤は使用しないでください。また、油をさしたり、水につけたりしないでください。
- 万一、紛失したり故障した場合などに備えて、イタンゴ®、使用するインスリン製剤および注射針の予備を用意しておくことをお勧めします。

各部の名称



ダイヤル表示の見方

奇数の場合 (例：13単位) 偶数の場合 (例：14単位)

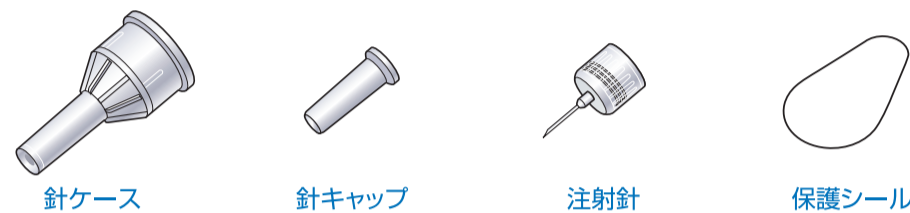


インスリンカートリッジ 本品専用のインスリンカートリッジを使用してください。



複数の種類のインスリンカートリッジを処方されている場合には、各々の製剤ごとに専用の注入器をお使いください。

使い捨て注射針 JIS T 3226-2に準拠したA型専用注射針を使用してください。



インスリンカートリッジおよび使い捨て注射針は、イタンゴ®には付属していません。

インスリンカートリッジの取り付け

一度取りつけたインスリンカートリッジは、使い終わるまで取り出さないようにしてください。

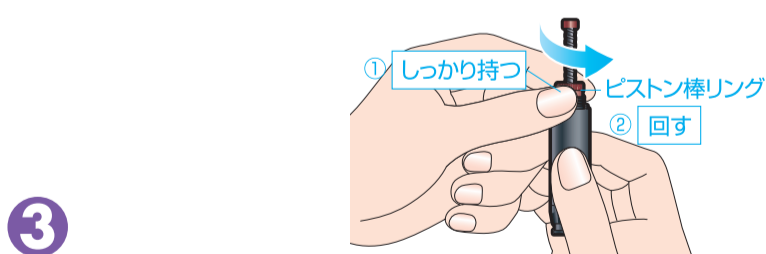


ペン本体とキャップをまっすぐ引っぱってはずします。



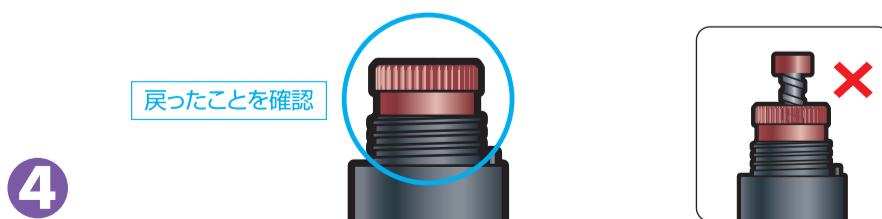
カートリッジホルダーを回してペン本体からはずします。

●カートリッジホルダーをはずす前に、ダイヤル表示が「0」になっていることを確認してください。



赤いピストン棒リングを軽く当たる感触があるまで回し、ピストン棒をペン本体の中に完全に戻します。

●円盤を手でつまんでピストン棒を押し込もうとしたり、引っぱったりしないでください。



ピストン棒がペン本体の中に戻ったことを確認します。

- ダイヤル表示が「0」になっていることを確認してください。
- ピストン棒の先端に円盤がない場合には、使用しないでください。

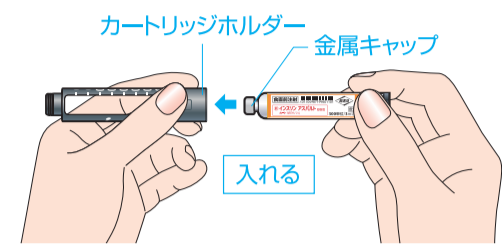
5



本品専用のインスリンカートリッジであることを確認します (図はインスリン アスパルト BS注カート NR(サノフィ))。

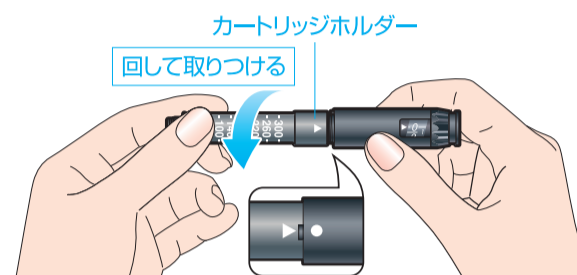
- 新しいインスリンカートリッジは、冷蔵庫から出して1~2時間くらい室温下に置いてからお使いください。
- 次のような場合は使用しないでください。
 - ・インスリンカートリッジにひびが入っている。
 - ・インスリンカートリッジ内が無色透明でない、または浮遊物が見られる。

6



インスリンカートリッジを、金属キャップの方からカートリッジホルダーに入れます。

7



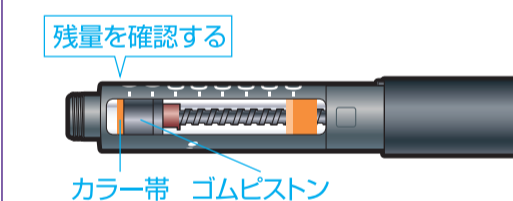
カートリッジホルダーを止まるまで回し、ペン本体にしっかり取りつめます。

- ペン本体とカートリッジホルダーの間にすきまが残っていたり、ゆるみがないことを確認してください。

注射針の取り付け

注射のたびに、必ず新しい注射針をご使用ください。

注射針を取りつける前に



インスリンカートリッジ内のインスリン残量を確認します。ゴムピストンの先端がインスリンカートリッジのカラー帯にかかったら新しいインスリンカートリッジに交換する目安です。

- 使いはじめて4週間を過ぎたインスリンカートリッジは使用しないでください。

1



インスリンカートリッジ先端のゴム栓を、消毒用アルコール綿でていねいにふきます。

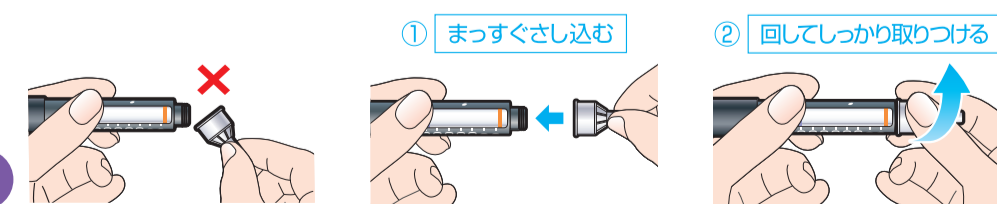
2



新しい注射針の保護シールをはがします。

- 保護シールが破損している場合は、その注射針を使用しないでください。

3



ゴム栓に、新しい注射針をまっすぐに差し込み、カートリッジホルダーを持ちながら針ケースを回してしっかり取りつめます。

- 注射針を斜めに取り付けると、針曲がりや針折れの原因となり、液漏れや液が出なくなるおそれがあります。

空打ち

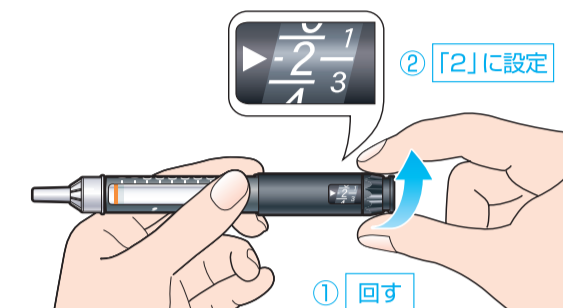
空打ちは、毎回の注射の直前およびインスリンカートリッジの交換後に必ず行ってください。イタンゴ®は注射針をはずす前に単位設定ダイヤルを回したり、注入ボタンを押し込んだりしないでください。

1



ダイヤル表示が「0」になっていることを確認します。

2



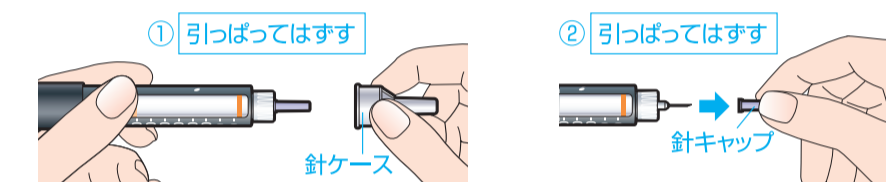
単位設定ダイヤルを回して、ダイヤル表示を「2」単位に設定します。

単位の修正



●回しすぎてしまった場合には、逆に回して「2」単位に修正してください。

3



針ケースと針キャップをまっすぐに引っぱって、はずします。

- 針ケースは、注射後の注射針の取りはずし・廃棄時に使用します。捨てないでください。

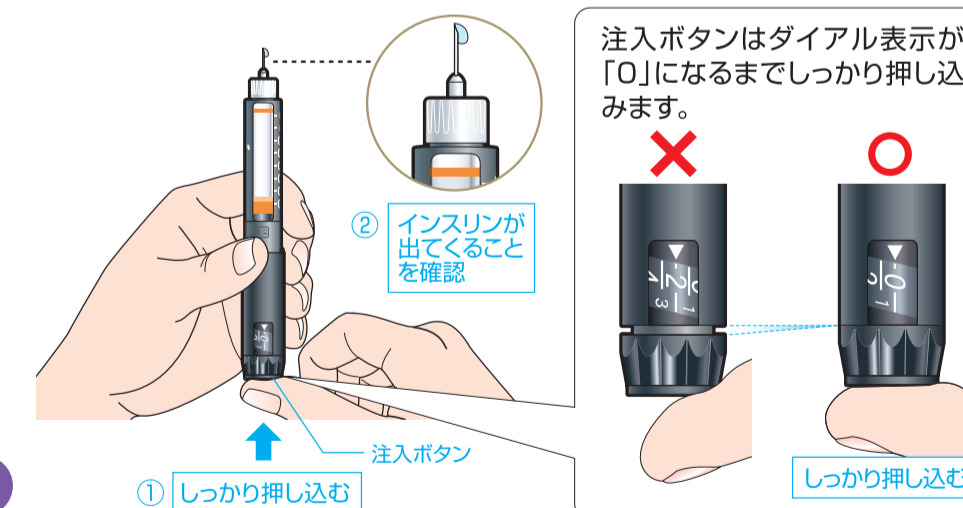
4



針先を上に向けて持ち、カートリッジホルダーの上部を指で軽く数回はじき、気泡を上部に集めます。

- ここからの操作は注射針が出ていますので、十分に注意してください。

5



注入ボタンをダイヤル表示が「0」になるまでしっかり押し込み、針先からインスリンが出てくることを確認します。インスリンが出てこない場合は、空打ち-1に戻りインスリンが出てくるまで繰り返し空打ちを行います。

- 新しいインスリンカートリッジを装着した後は、数回空打ちを繰り返さないと、インスリンが出ないことがあります。
- 空打ちを数回繰り返しても、インスリンが出てこない場合は、注射針がつまっているか、曲がっている可能性があります。新しい注射針に交換し、空打ちの操作を繰り返してください。
- 注入ボタンの押し込み方などにより、インスリンの排出量が異なって見えることがあります。空打ち後の注射量には影響はありません。
- インスリンカートリッジ内に小さな気泡が残ることがありますが、問題はありません。

単位の設定



1

空打ち後、ダイヤル表示が「0」になっていることを確認します。

例：注射する単位が24単位の場合



2

単位設定ダイヤルを回して、注射する単位に設定します。

- 故障する可能性があるため、60単位を超えて単位設定ダイヤルを回さないでください。60単位を超えて注射する場合は、2回に分けて注射してください。
- 単位設定ダイヤルが回らない場合は、無理に回さないでください。イタンゴ[®]は残量以上の単位を設定することはできません。注射する単位が残量より多い場合は次のいずれかで対処してください。
 - ①インスリンカートリッジを新しいものに交換し、空打ちをした後、注射する単位に設定し、注射してください。
 - ②残量分を注射した後、新しいインスリンカートリッジに交換し、空打ちをした後、不足分を追加で注射してください。

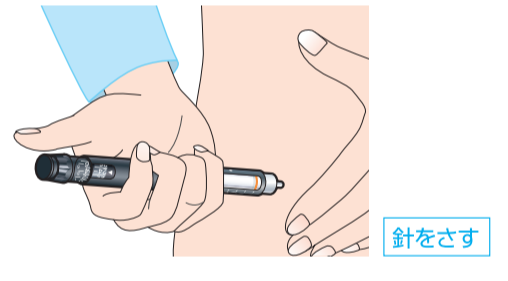
単位の修正



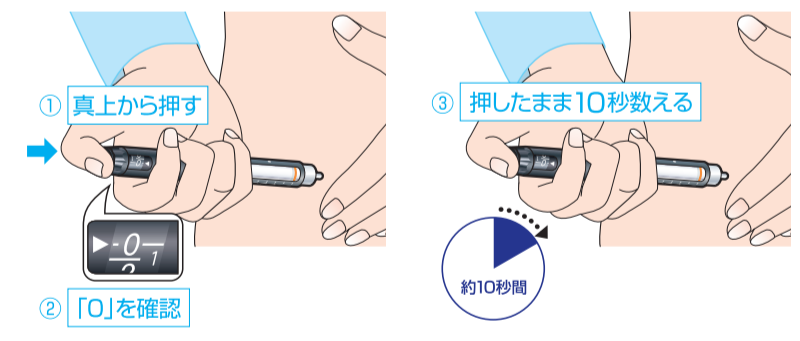
●回しすぎてしまった場合には、逆に回して正しい単位に修正してください。

注射

1



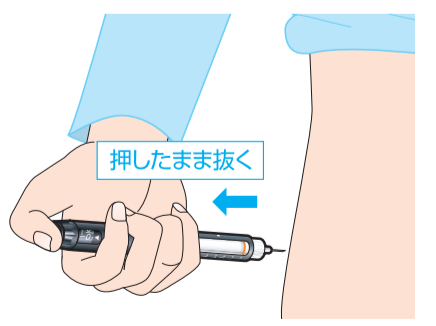
注射する部位を消毒用アルコール綿で消毒し、皮膚に注射針をさします。



2

注入ボタンを真上からしっかり押し込んで、ダイヤル表示が「0」に戻ったことを確認します。完全にインスリンを注入するため、注入ボタンを押し込んだ状態でゆっくりと10秒数えます。

- 単位設定ダイヤルの側面に指が触れていたり、注入ボタンを斜めから押すと、注入ボタンが押し込めない場合があります。



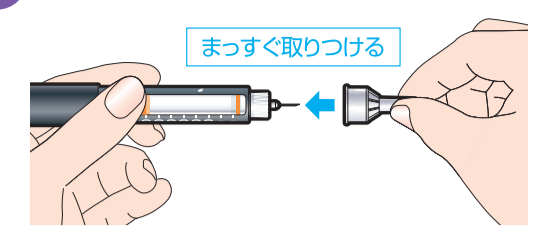
3

注入ボタンを押ししたまま、注射針を抜きます。

- 注射針を抜き終わる前に注入ボタンを押す力をゆるめると、まれにインスリンカートリッジ内に血液が逆流することがあります。
- インスリンカートリッジ内に血液が混入した場合は、新しいインスリンカートリッジに交換してください。

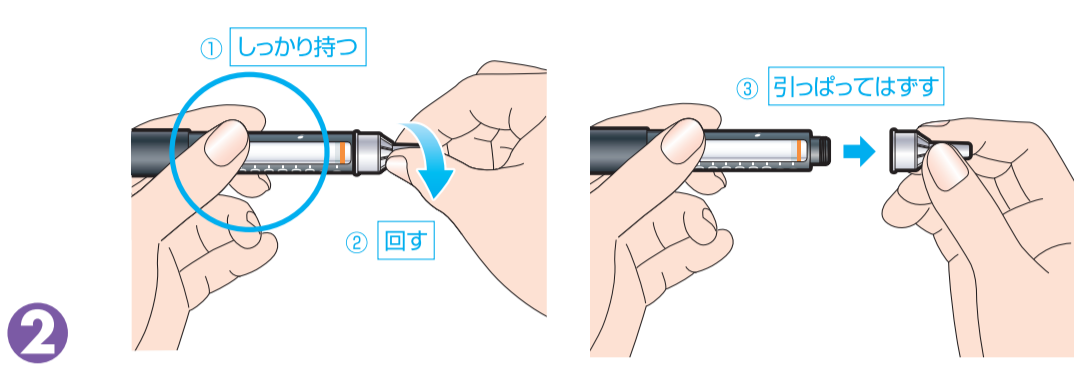
後かたづけ

1



針ケースを注射針にまっすぐ取りつめます。

- 感染症や針づまり、気泡の混入を防ぐために注射後は速やかに注射針をはずし、注射のために新しい注射針を使用してください。
- 針キャップは絶対に再度使用しないでください。注射針で指をさすおそれがあります。
- 針ケースを斜めからつけると、注射針が針ケースを突き抜けることがあります。
- 注射の手助けをする場合は、針さし事故や感染に注意してください。



2

カートリッジホルダーをしっかり持って、針ケースを回して、注射針を取りはずします。

- 使用済みの注射針は、主治医の指示に従い、危険のないよう廃棄してください。



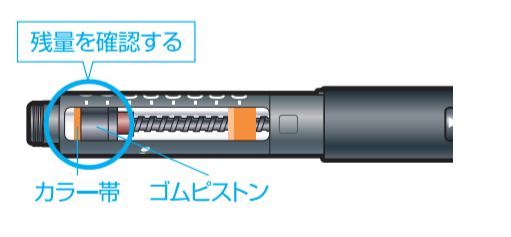
3

ペン本体にキャップをまっすぐ(キャップの▶とペン本体の●を合わせる)取りつけ、専用のポーチに戻し、涼しいところで保管します。

- イタンゴ[®]および使いはじめたインスリンカートリッジは涼しいところで保管してください。また、小児の手の届かない場所に保管してください。直射日光のあたる場所、湿気の多い場所や極端に低温または高温になる場所での保管は避けてください。
- イタンゴ[®]を決して冷蔵庫に入れないでください。また凍結させないでください。
- イタンゴ[®]の内部にほこりが入らないよう、必ずキャップをして保管してください。

インスリンカートリッジの交換

インスリンカートリッジの交換時期



ゴムピストンの先端がインスリンカートリッジのカラー帯にかかったら新しいインスリンカートリッジに交換する目安です。

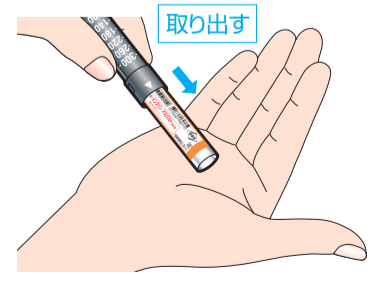
- 使いはじめた4週間を過ぎたインスリンカートリッジは使用しないでください。

1



注射針をはずした後、カートリッジホルダーを回して取りはずします。

2



使用済みのインスリンカートリッジを、カートリッジホルダーから取り出します。

- 使用済みのインスリンカートリッジは医療機関の指示に従って、安全な方法で廃棄してください。

3



新しいインスリンカートリッジを準備する

新しいインスリンカートリッジを準備し、表面のインスリンカートリッジの取り付け - 3 に戻り、インスリンカートリッジを正しく取り付けます(図はインスリン アスパルト BS注カート NRIサファイ)。

こんな時には? ~トラブル時の対処方法~

●記載以外のトラブル、ご不明な点がある場合は、必ず主治医またはオプチコール24までご相談ください。

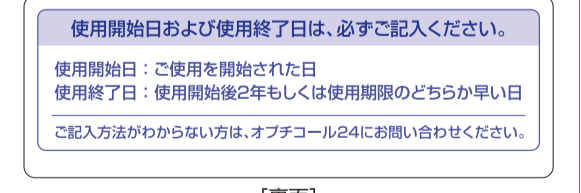
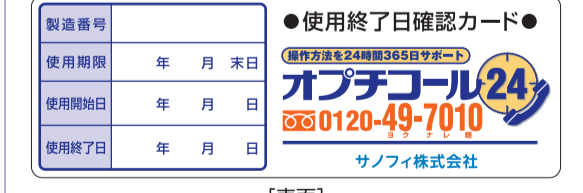
トラブル	考えられる理由	対処方法
1 カートリッジホルダーをペン本体に装着できない	インスリンカートリッジの向きが逆になっていませんか? 他のインスリン製剤を使用していない ピストン棒が完全にペン本体に戻っていますか?	金属キャップの方からカートリッジホルダーに挿入してください。 本品専用のインスリンカートリッジをお使いください。 ピストン棒を完全にペン本体に戻してください。
2 ピストン棒から円盤がはずれてしまった	ピストン棒を硬いものに押しつけるなどして、押し込もうとしたり、本体を落としたりしませんでしたか?	主治医に相談し、新しいイタンゴ [®] に交換してください。
3 注射針を装着できない	注射針が曲がっていませんか?	新しい注射針に交換し、正しく取り付けてください。
4 インスリンカートリッジのゴム栓が異常に膨らんでいる	注射針をつけずに、単位設定して注入ボタンを押さなかったか? 新しいインスリンカートリッジを取りつける時に、ピストン棒をペン本体に完全に戻しましたか?	注射針を正しく取り付け、注射の前に空打ちを行って、針先からインスリンが出てくることを確認してください。
5 注射する単位が設定できない	インスリンカートリッジ内のインスリンが不足していませんか?	イタンゴ [®] は残量以上の単位を設定できません。下記の①または②のいずれかで対処してください。 ①インスリンカートリッジを新しいものに交換し、空打ちした後、注射する単位に設定し、注射してください。 ②残量分を注射した後、新しいインスリンカートリッジに交換し、空打ちした後、不足分を追加で注射してください。
6 単位設定ダイヤルを回した際に、ダイヤル表示が60単位を超えてしまった	無理に単位設定ダイヤルを回そうとしましたか?	無理に単位設定ダイヤルを回してダイヤル表示が60を超えてしまった場合には、元に戻して使用せずに、新しいイタンゴ [®] に交換してください。
7 注入ボタンが押しにくい(押せない)	注入ボタンを斜めから押ししていませんか? 注入ボタンを押し込む際に、単位設定ダイヤルの側面に指が触れていませんか?	注入ボタンをまっすぐに押し込んでください。 注入ボタンを押し込む際に、単位設定ダイヤルの側面に指が触れないようにしてください。
8 インスリンが出ない	インスリンカートリッジを交換した直後ではありますか? ペン本体にカートリッジホルダーが正しく装着されていますか? インスリンカートリッジを使用中にカートリッジホルダーを取りはずしませんでしたか? 注射針が詰まっていたり、曲がっていたりしませんか? インスリンカートリッジの中に気泡が入っていませんか? 注入ボタンをダイヤル表示が「0」になるまで確実に押し込みましたか?	インスリンカートリッジを交換した直後は、繰り返し空打ちを行わないとインスリンが出てこないことがあります。インスリンが出てくるまで、繰り返し空打ちを行ってください。 ペン本体とカートリッジホルダーとの間にすき間やゆるみがないことを確認してください。 カートリッジホルダーを正しく取り付け、インスリンが出るまで繰り返し空打ちを行ってください。 新しい注射針に交換し、正しく取り付けてください。 気泡がなくなり、インスリンが出てくるまで、繰り返し空打ちを行ってください。 空打ちの操作を行っても小さな気泡が残ることがありますが、インスリンが出ることを確認できれば、わずかに気泡が残っていても、インスリンの注射量に影響はありません。 注入ボタンをダイヤル表示が「0」になるまで確実に押し込んでください。
9 注射後にダイヤル表示が「0」に戻らない	注入ボタンが最後まで確実に押し込まれていますか?	インスリンが確実に注射できなかった可能性があります。血糖値や自覚症状の変化にご注意いただくとともに主治医に相談してください。

トラブル	考えられる理由	対処方法
10 ゴム栓からインスリンが漏れる	注射針をしっかりと取り付けしていないか、斜めに取りつけたりしていませんか?	注射針をまっすぐに正しく取り付けてください。それでもゴム栓からインスリンが漏れる場合は、新しい注射針に交換し、正しく取り付けてください。
11 注射して皮膚から注射針を抜いた時、針先からインスリンが漏れる	インスリンが確実に注射できなかった可能性があります。血糖値や自覚症状の変化にご注意いただくとともに主治医に相談してください。次回からは、下記の①、②の点に注意してください。 ①注射針を抜くのが早すぎませんか? ②インスリンカートリッジの中に大きな気泡が入っていませんか?	注射した後、注入ボタンを押したまま約10秒間待つから注射針を抜いてください。 注射針を装着したまま保管すると気泡がたまりやすくなります。インスリンが出るまで、繰り返し空打ちを行いインスリンカートリッジ内の大きな気泡を取り除きます。
12 注射針を取りはずす際にカートリッジホルダーがゆるんでしまった	カートリッジホルダーを持たずに注射針を取りはずそうとしましたか?	そのままカートリッジホルダーをしめなおしてください。次回からはカートリッジホルダーを持って、針ケースごと注射針を取りはずしてください。
13 インスリンカートリッジ内の気泡が多い	注射針を装着したまま保管していませんか?	注射が終わったら、必ず注射針を取りはずしてください。注射針を毎回取りはずしているにもかかわらず、インスリンカートリッジ内に気泡が多くある場合には、インスリンカートリッジがひび割れている可能性がありますので、新しいインスリンカートリッジに交換してください。
14 赤いピストン棒リングを回してピストン棒をペン本体に戻そうとした際に、単位設定ダイヤルが出てきた	イタンゴ [®] の構造上、このような事象が見られることがありますが、故障ではありません。	単位設定ダイヤルが出てきた場合には、ダイヤル表示が「0」になるまで注入ボタンを押し込んだ後、単位設定ダイヤルを持って、赤いピストン棒リングを回してください。
15 ピストン棒をペン本体に戻した際に、ピストン棒リングが回らなくなりました	ピストン棒をペン本体に戻す際に、軽く当たる感覚があった後も、ピストン棒リングを回し続けませんでしたか?	ピストン棒をペン本体に戻した際に、ピストン棒リングが回らなくなっても故障ではありません。新しいインスリンカートリッジをカートリッジホルダーに入れ、空打ちを行ってください。次回からは、ピストン棒をペン本体に戻す際は、軽く当たる感覚があるところで止め、それ以上回し続けなくてください。
16 キャップが取り付けられない	カートリッジホルダーがゆるんでいたり、キャップを取りつける方向を誤っていませんか?	カートリッジホルダーがゆるんでいないことを確認した後、キャップを正しい方向(キャップの▶とペン本体の●をあわせる)でまっすぐ取り付けてください。取りつける際に、キャップを回したりひねったりすると、キャップを本体に固定するための内側のパーツが摩擦したり破損したりして、キャップがきちんと閉まらなくなるおそれがあります。
17 操作中にカートリッジホルダーやインスリンカートリッジがはずれてしまった	カートリッジホルダーがゆるんだまま操作をしまさなかったか?	インスリンカートリッジは再度装着して使用することができます。正しく装着しなおして、必ず空打ちを行ってください。インスリンが出てくることを確認してから注射を行います。

イタンゴ[®]の交換時期

イタンゴ[®]は使用開始後2年間ご使用いただけます。ただし、それ以前に「使用終了日確認カード」に表示された使用期限に到達した場合には、その日ご使用終了日となりますので、その時点で交換してください。

- 使用終了日確認カード(製品パッケージに封入)



イタンゴ[®]をはじめサノフィの糖尿病関連医療機器の操作方法に関するご質問に、専任のスタッフが24時間365日、いつでもサポートします。

糖尿病の治療やおくすりに関するご質問などは、主治医にご相談ください。

イタンゴ[®]は、サノフィグループの登録商標です。

イタンゴ[®]は、日本工業規格JIS T 3226-1(医療用ペン形注入器-第1部:ペン形注入器-要求事項及びその試験方法)に適合しています。

サノフィ 糖尿病関連医療機器サポートダイヤル
操作方法を24時間365日サポート
オプチコール24
 ☎0120-49-7010
 サノフィ株式会社